



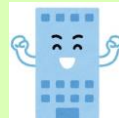
ユニバーサルデザイン？
どんなものが応募できるの？



例えば、こんなものがあるよ！

活動部門

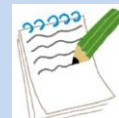
まちづくり 建物・設備・公園・交通など



○高齢者、障害のある人、妊産婦など、みんなが安心して生活できるよう、実際に目の不自由な人や、車いす利用者、子供連れの方などの意見を聞いて、段差をなくす・案内板の設置・手すりをつけるなどの改修を行った。

○バスの案内板の表示を、みんなが分かりやすいように、ピクトグラム（絵文字）を使ったり、英語表記を取り入れた。

ものづくり 福祉用具・文房具・食品・印刷物など



○実際に使用する人の意見を聞きながら、子どもから高齢者、障害のある人までみんなが安心して使える商品を開発した。

○聴覚障害者のコミュニケーション手段の1つである要約筆記をみんなに知ってもらうため、地域のまつりで市民と一緒に携帯用ホワイトボードを作成し、企業や民生委員等に配布した。

○多くの方に配布するパンフレットなど、みんなが見やすい文字の大きさ、色覚障害をもつ人にもわかりやすい色づかいに配慮している。

情報・サービスの提供 各種情報提供・接客など



○県内の観光地などのバリアフリー状況の調査結果を情報提供した。

○障害のある方や高齢者、妊産婦など、移動が困難と感じる方々がバスを利用する際の対応をまとめた「バス運転手のためのバリアフリーマニュアル」を作成し、みんなが気持ちよくバスを利用できるよう心がけている。

意識づくり（心のバリアフリー）

普及啓発活動、各種ボランティア、声かけ運動、多文化・多世代交流など

○学校の授業等でユニバーサルデザイン学習に取り組み、その結果をまとめた冊子などを作成し、校外に配布した。

○過疎化が進んでいる地元の高齢者から、地元の情報が少なく、同年代や若者の活躍を知りたいと言われたことから、地元高校のコンピューター部が地元で頑張っている方々取材し、地元ケーブルテレビと連携して放送している。

○障害のある方、高齢者、妊婦、小さな子ども連れの方など、困っている人を見つけたときに、みんなが手助けしたり声をかけたりする「運動」などを行っている。

○多文化（外国の人など）・多世代の方と一緒に活動するなど、交流を行っている。

心のバリアフリーとは

年齢、性別、国籍、障害の有無等に関係なく、ともに暮らせる社会を目指し、お互いが支え合い、助け合うことです。



